

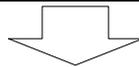
- 想像力を駆使しながら、様々な文章を読む楽しさを味わわせよう -

教材名：「モアイは語る - 地球の未来」(光村図書『国語2』)

「女神は見守り給ふ」(ジョセフ・バーガー・風見潤訳『ショートショート秀作選1』集英社コバルト文庫)

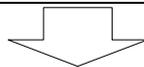
学習状況調査との関連

登場人物の心情を読み取り、記述する設問で通過率が低い。



手掛かりとなる表現に焦点を当てて想像力を働かせる学習が必要です。これは、文学的文章の指導だけの問題ではありません。間接体験(テレビ等のメディアからの)が豊富にあっても、「読むこと」に応用できていないのです。想像し、それを表現する学習が必要です。

読み取ったことや自分の考えを表現する設問で無解答が多い。



自分の考え、意見を書くことを授業の中で度々取り入れていく必要があります。文章の様式に沿った例を指導者が的確に示していきます。また、考えや意見を交流させるための工夫も必要です。

設定した言語活動とそのねらい

自分が想像したことを挿入しながら、文章の紹介文を書く

- ・ 表現をよく吟味させます。
 - ・ それぞれが想像したことを発表、交流させることで文章中の表現を読み深めていきます。
 - ・ 文学的文章で想像する楽しさを味わわせるだけでなく、説明的な文章でも取り上げられた史実の裏にある人々の苦悩や願い、細部の情景などに思いを馳せて読む楽しさを実感させます。
- 複数の文章を重ね読みする
- ・ 複数の文章を読むことのねらいは様々ですが、今回は、文学的文章と説明的な文章を横断する「読むこと」の学習を設定しました。『女神は見守り給ふ』が、説明文『モアイは語る』に対する興味を引き上げることが期待されます。文種を横断して、想像力を働かせることの大切さや楽しさを実感させることをねらいます。

単元の指導目標

- (1) 想像力を働かせながら読むことで、様々な文章に親しませる。〔関心・意欲・態度〕
- (2) 様々な文章を細部の表現に注目して想像力を働かせて読ませる。〔C 読むこと(1)エ〕
- (3) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えるため、言葉を吟味させる。〔言語事項(1)イ〕

単元の評価規準

- ア 自分の読みを交流しようとしている。〔関心・意欲・態度〕
- イ 指定された表現と関連する表現とを結び付けて、想像を働かせている。〔C 読むこと(1)エ〕
- ウ 自らの体験(直接・間接)を使いながら、想像を働かせている。〔C 読むこと(1)エ〕
- エ 想像したことを伝えるために、緊迫した状況を表現する言葉を使っている。〔言語事項(1)イ〕

単元計画

時	学習活動	評価規準と評価の方法
1	『女神は見守り給ふ』中の難語句について簡単に言い換える作業に、先行して取り組む。 【ワークシートA】	エ 辞書的な意味だけでなく、文脈に沿って言葉の意味をとらえている。 〔ワークシート〕
2	『女神は...』の教師の音読を聞く。 題名から「女神は、何を見守っていたのか」について考え、発表する。	ア 積極的に近くの者に声を掛け、自分の考えを出し合っている。 〔話合いの様子〕
3	文章中の「大変化」という表現に注目し、具体的にはどのような光景を想像するか、発表する。 学習活動 について再考する。 2年時に学習した『モアイは語る』を再読させる。	ア 積極的に近くの者に声を掛け、自分の想像を出し合っている。 〔話合いの様子〕 イ・ウ より確かに想像するための根拠を文章中から探している。 〔机間指導〕 イ・ウ 前時と比べ、根拠を添えて考えを述べられるようになっている。 〔発表〕
4	『モアイは語る』の中に、『女神は見守り給ふ』の「大変化」から想像したこととつながる段落、表現がないかを考える。 で挙げられた段落、表現を基にして想像したことを文章化する。 で文章化したものを黒板に書き（指名された数名）、想像の内容と表現の仕方の双方から評価する。 学習活動 で取り上げた「見守る女神」の表す意味について、これにつながる想像が『モアイは語る』でも浮かび上がってこないか考える。	ア 積極的に近くの者に声を掛け、自分の考えを出している。 〔話合いの様子〕 イ・ウ より確かに想像するための根拠を文章中から探している。〔机間指導〕 エ 想像したことがより確かに伝わるよう、言葉を選んでいる。 〔机間指導〕 イ・ウ・エ 黒板の発表を見て、想像の広げ方や想像したことを表現する際の「巧みな点」を強調し、ノートに写し取っている。〔ノート、観察〕
5	学習活動 で取り組んだ「想像したこと」を挿入し、『モアイは語る』『女神は見守り給ふ』を紹介する文章を完成させる。 【ワークシートB】 学習を振り返り、様々な文章を読むときに求められる「想像力」について感想を述べる。	イ・ウ・エ 前時、黒板に発表された考えなども参考にして、想像したことを文章化している。〔机間指導〕 ア 日常の読書において、想像力を働かせて読む楽しさを体感するようになってきている。〔事後の聞き取り〕

本時のめあて：注目すべき表現について、どのような光景が想像できるか発表しよう

「言語活動」には、生徒が自分の力でできること、という完成形のイメージが先行しているのではないでしょう。

しかし、そうなるまでには「文章のどの言葉に着目すれば、楽しく深く読めるのか」「注目すべき言葉を、他の言葉との関係からどのようにとらえていけばよいか」などについて指導者の的確な出番が肝心であるはず。

指導者が自分の読みを講義するのは違います。どこに指導者の出番を想定しておくか。そこでの助言は具体的なものか、読み方に通ずるものか。

古くて新しい課題なのだと感じます。



この文章には、何度も出てくる言葉があるな。そう「大変化」だね。この「大変化」って、何のことだろうか？

分かった、大地震！津波、とか。その津波で「自由の女神」が海中に沈んだんだ。どう？

核戦争？



核戦争？ 大地震？

「大変化」がそのようなものだとしたら「女神の首」など粉々になって原形をとどめていないのではないかと？

その他の表現にも注意して、言葉と言葉をつなぎながら“絵(想像した情景)”を描かなければ……さて、どんなことが起きたのか。手掛かりはみんな、既にもっているんだけどね。

分かった！「焚書」が関係してるんだ。
ワークシートAにあったらう？



「焚書」は「焼き払うこと」と言い換えたから、テロみたいなものじゃないかな。大変化とは。

「テロ」「暴動」「反乱」「デモ」などの言葉が、この後発表されました。自分が想像した情景を具体的に発表するよう、更に尋ねることで、ねらいに迫りました。

「足下からライトアップされた自由の女神像。その周辺を大群衆が取り囲んでいる。幾人かが女神像によじ登っている。群衆からは、女神像を破壊しようとする彼らに対する声援と、止めてくれという悲鳴が入り交じって聞こえてくる」

などは規準を「十分達成している」と評価できます。

終末で、ここに登場する「大変化」とは「人々のいさかいなのだ」とまとめました。

本時のめあて： 『女神は見守り給ふ』に描かれていたこととつながる段落や表現を『モアイは語る』の中に探すことで、想像力を発動させよう



形式段落の15が『女神...』の「大変化」とつながっていると思います。



え、8段落だと思ったんだけど？
だって、自由の女神は暴動を起こす人たちを「おやめなさい」って見守っていたんでしょ？だったら、8段落のここ「モアイは.....」というのにつながるでしょう？ねっ？ねっ？

どんな表現が、「大変化」とつながると思うのか？
「大変化」から想像を広げたときは「焚書」などを手掛かりにしたよね。あのときと同じだぞ。
君が想像したことは、『モアイ...』らしい舞台を基に描いているかな？
そうして『モアイ』と『女神は...』それぞれの言葉 いくつかどこかで見たことのある画面、3つをつないだ“絵”(想像した情景)になっているかな？



表現を基にして広げた想像を文章化させます。これを黒板に書かせ(数人を指名)想像の内容と表現の仕方、双方から評価します。全体のモデルとなるように評価するのです。

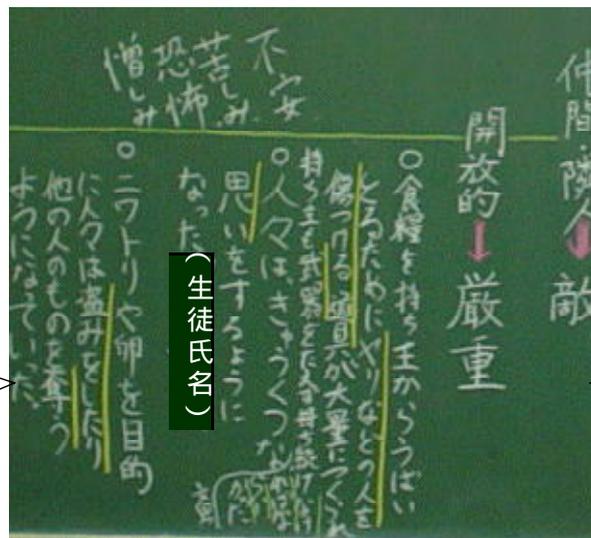


ねえねえ、どんなことを書いたの？
こんなの。
あー、なるほどね。それはあったかもしれない。

「きゅうくつな思い」なんて、みんなは具体的に想像できるかな？

極端に言えば昨日まで近所付き合いをしていた人が信用できなくなる生活に変わるんだ。

単に「憎しみ合う」などの表現とは違うよね。周りのどの人たちに対しても、接し方が同じだった訳ではないよね。



板書例

なるほど。「仲間、隣人・開放的な」という言葉、それに対する「敵・嚴重な」という言葉に注目したんだね。

こっちの人も同じ言葉に注目して想像を広げたようだね。

「人を傷つける道具」として「ヤリ」か。ありそうだね。

次の時間は、それぞれの人が想像したことを使うから、今日発表してくれたことも参考にしようね。

